

# アウトリーチ

通信



第 15 号

2010 年 3 月 20 日発行  
年 2 回発行

神戸女学院大学音楽学部  
アウトリーチ・センター

## 第二十八回

### スペシャル・コンサート

子どものための  
コンサート・シリーズ



（師）をソリストにお招きして、パイプ・オルガンの魅力を映

十月十六日（土）本学講堂で「子どものためのスペシャル・コンサート」（パイプでド・レ・ミ〜）（子どものためのコンサート・シリーズ第二十六回）を開催しました（午後二時）、来場者数二百二十六名。今回は日本を代表するコンサート・オルガニストの井上圭子さん（本学音楽学部非常勤講師）をソ



像とお話とすぐれた演奏でたっぷり味わって頂くコンサートとなりました。

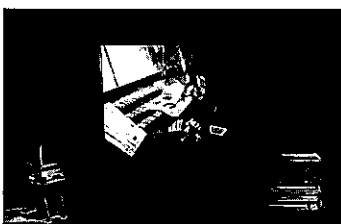
幕開けはムーレ《ファンファーレと合奏用組曲》より第一番（ロンド）。客席後方の大オルガンが華やかに鳴り響いて、お客様の目を二階の大オルガンへと惹き付けます。

マイクを持ってソリストが二階バルコニーから挨拶し、今日のコンサートの主旨をお話した後、マクダウェル《野ばらに寄す》とバルトーク《ヘルマニア民族舞曲》を続けて演奏。静かな優しい音色の曲と、多彩で個性的

な音色の曲との聴き比べです。

続いて、オルガン音楽の最も重要な作曲家として J・S・バッハ（一六八五〜一七五〇）を紹介。バッハゆかりの町や教会、オルガンの映像をスクリーンに映しながら話を進めます。その上でバッハのオルガン曲（主よ、人の望みの喜びよ BWV 一四七）と《前奏曲とフーガ ト長調 BWV 五五〇》の二曲を演奏しました。

ここで、ソリストが二階の大オルガンから一階前方の舞台に下りてくる間を利用して、アシスタントの早野紗矢香さん（神戸女学院オルガニスト）がオルガンの歴史や構造についてお話しました。



二千三百年もの歴史を持つオルガンは、水力オルガンから始まり、昔は人力、今は電力でパイプに風を通して音を鳴らしています。その基本構造を模型で説明。パイプ、風を送るふいご、風をパイプに送る弁をコントロールする鍵盤、この三つがあって初めてオルガンから音が出ます。



続いて、舞台上の小オルガン（ポジティブ・オルガン）を使ってストップ（パイプに風が送り込まれるのを止める装置）の働きとその効果（複数の音色を重ね合わせる）を確認。それを踏まえて、ソリストが舞台右横にある中オルガンで J・S・バッハ《フーガ ト短調》を演奏しました。

次は、世界のオルガンの紹介です。

井上圭子さんは世界各地のパイプ・オルガンを演奏してきたキャリアの持ち主で、それらのオルガンのすてきな写真をたくさんお持ちです。



現存世界最古のオルガン（スイス、シオンの教会にある別名「ツバメの巣オルガン」）やバツハやモーツァルトが弾いたオルガン、百一ストツプを備えた巨大なオルガン（フランス、パリの聖ユスタッシュ教会）、水平トランペットのついたスペインの特徴的なオルガン（グラナダの教会）など、楽器ごとに装置やデザインが異なり、美術品のような美しさを兼ね備えたものばかりです。一個一個、オーダーメイドで作られるパイプ・オルガンは、言葉や文化、風土に違いがあるように、国によって性格が違ふというお話がよく納得できました。



ここで、子どもたちの参加コーナー。オルガンに使われている本物のパイプを舞台で吹いてもらいます。曲はR・ロジャース『サウンド・オブ・ミュージック』より「ドレミの歌」。ドから上のレまで一人一本ずつパイプを持って、井上圭子さんの演奏に合わせて音を鳴らします。「ド・ミ・ミ、ミ・ソ・ソ、レ・ファ・ファ、ラ・シ・シ……」。

音楽とスタツプの指示に合わせ、まずは練習、そして本番！皆、一生懸命に吹いてくれました。続いて、希望者三名に舞台右横の中オルガンの演奏体験をしてもらいました。



その間にソリストは再び二階の大オルガンに戻って、『サウンド・オブ・ミュージック』より「エーデルワイス」私のお気に入り、全ての山に登れ」をメドレーで、L・ハーライン『ピノキオ』より「星に願いを」（青木望編曲）を演奏。最後は、ヴィエルヌ『幻想的小品集』より「太陽への賛

歌」で華やかにコンサートを締め括りました。



コンサート終了後の楽器体験コーナーでは、舞台横の中オルガンを弾くコーナーに加えて、二階の大オルガンの見学ツアーを実施。どちらも長蛇の列ができる人気でした。

お客様からは「子どもが『弾いてる人がすごい！』と何度も言っていました」「中々聞く機会がない楽器なので、とてもよい企画」「仕組みもよく分かり、親子共に楽しめた」「オルガンが弾ける企画がよかったです」といった声を頂きました。

（寺澤彰・記）



## 第二十七回

### クリスマス・コンサート

十二月十二日（土）本学講堂にて「子どものためのクリスマス・コンサート」音楽にのって世界をめぐる！」（子どものためのコンサート・シリーズ第二十七回）を開催しました（第一部・十一時、第二部・十六時、来場者数、計八百十二名）。「音楽によるアウトリーチ」既修生五名と賛助出演一名が出演しました（ピアノ・井上智恵子、友田麻依加、小原友、声楽・金岡伶奈、声楽・オルガン・先間恵子、フルート・中村亜彌子）。

まずはカーテンを開けたままで、J・S・バッハ（プレリユードとフーガイ短調 BWV五五九）のオルガン独奏で開演。客席が静まり、もう一曲オルガン独奏で作曲者不詳「甘き喜びのうちに」を演奏しました。

続いてアナウンスで、クリスマスが世界で一番素敵なお誕生日というお話と、特別な日に皆さんと一緒に音楽にのって世界の国々を巡ろうとのコンセプトを伝えました。

カーテンを開いて、G・フォーレ「レクイエム」より（ピエ・イエズ）を独唱。澄んだ声



に子どもたちも耳を澄ましてくれました。

そこから旅に出発です！

まず太陽の国イタリアへ。アルディ  
ーティ（ロッケー）をソプラノのコロラ  
トゥーラで華や

かに歌って、次  
はフランスです。

フランスの作曲  
家A・アダンが

書いたクリスマス  
スの歌（オー・

ホーリー・ナイ  
ト）をお馴染み

の歌詞で歌います。



次に南アメリカの国アルゼンチン  
へ。アルゼンチンのクリスマスは夏。  
アルゼンチンの情熱な踊りであるタ  
ンゴから、A・ピアソラ（リベルタン  
ゴ）をフルートとピアノとピアノの  
アンサンブルで演奏。舞台の照明も色  
が赤や青にくると変わって盛り  
上げます。

続いて北米のアメリカ合衆国へ。デ  
イズニーの音楽からジミー・ドッド  
（ミッキーマウス・マーチ）をピアノ  
連弾でジャズ風に演奏。いつも聴いて  
いるリズムとはちよつと違います。

ここで、趣向をかねてイントロクイ

ズです。テーマはクリスマスの歌。小  
さい子どもたちの多い午前の公演で  
は、曲の出だしの部分をピアノで演奏  
し、それを子どもたちが何の曲か当て  
るクイズとしました。午後の公演（小  
学生以上が対象）では、曲頭のリズム  
だけを手拍子で打って聞いてもらい、  
曲を当ててもらいました。どちらも子  
どもたちが元気よく手をあげてくれ  
ました。クイズで

出題した曲をその  
ままメドレーにし

て（ジングル・ベ  
ル）（赤鼻のトナカ

イ）（サンタが町に  
やってくる）（きよ

しこの夜）を会場  
の皆さんと一緒に

歌いました。



さて、次はロシアへ飛びます。チャ  
イコフスキー《くるみ割り人形》より  
《金平糖の精の踊り》をピアノとチェ  
レスタで、《鞆笛の踊り》（中国の踊り）  
（ロシアの踊り（トレバック））をピ  
アノ連弾とフルートで演奏。最後の曲  
でサンタが登場して、子どもたちから  
も「サンタさんだ！」と声が上がります。

世界の旅も

終りに近づき、

サンタさんと

一緒に日本に

帰ります。日

本の美しい四

季折々の情景

に思いを馳せ

ながら、北原

白秋／山田耕

筈（からたちの花）をソプラノ独唱で

演奏。会場内はふんわりとした優しい

空気になります。



最後に、クリスマスのプレゼントの

歌を、舞台にカラフルな包みを並べな

がら歌いました。曲はイギリス民謡の

《クリスマスの十二日》で、歌詞を今

時のものにアレンジしたので、子ども

たちも興味津々。最後にプレゼントが

足りなくなり、慌てたサンタさん。こ

こで小林亜星（あわてんぼうのサンタ

クロース）を会場の皆さんと一緒に歌

いました。最後に出演者の紹介をして

閉幕となりました。



終演後は、楽

器体験コーナーで

す！今回は、ピ

アノ、フルート、

オルガン、トーン

チャムにふれてもらいました。コンサ  
ート中に演奏された楽器を実際に体  
験した皆さん、とても楽しそうに参加  
していました。

前日のゲネプロに出演者が揃わな  
かった等で課題は多々ありましたが、  
「音楽にのって世界を巡る」という企  
画は好評だったようです。子どもたち  
の「楽しかった！」という声を会場で  
直接聞いたり、来場者アンケートで  
「子どもも目をキラキラさせていま  
した」といっ

た言葉を頂い

たりすると、

多くの方と感

動や嬉しさを

共感すること

ができる音楽

の力を、より

一層感じるこ

とができたし

た。また、そ

のような体験

を上げることが

できるコンサ

ートを行うこ

の意義や魅力

を改めて



（井上真理子・記）

## 学外アウトリーチ

神戸市立医療センター中央市民病院

八月二十七日(木)、神戸市立医療センター中央市民病院(神戸市中央区港島中町四の六)の院内コンサートで、私たちにとって初めてのアウトリーチ実習を行いました(声楽・藤野直、樋岡絵里那、井本綾華、石津寛乃、フルート・木村由香、ピアノ・小幡文香、岡崎典子、須山由梨)。

このコンサートには、入院患者さんはもちろん、ご家族やご友人など様々な方が来場され、中には音楽に詳しい方もあるとのこと。そこで前半はクラシック音楽、体操コーナーを挟んで、後半は一緒に歌うという構成を考えました。

まず、チャイコフスキー『くるみ割り人形』より『葦笛の踊り』(フルート)で始まり、ドビュッシー『月の光』(ピアノ)、プッチーニの歌劇『ジャニ・スキッキ』より『私のお父さん』(ソプラノ)、パガニーニ『カンタービレ』(フルート、ピアノ)を演奏し、それぞれの楽器の音色の違いを感じて頂きました。そして、フルート・声

楽・ピアノによるアンサンブルとして、メンデルスゾーンの『歌の翼に』を演奏しました。



次の体操コーナーでは、簡単なストレッチに続いて、久石譲『崖の上のポニョ』に合わせて体を動かすリズム遊びをしました。

後半は、全員で永六輔／中村八大『上を向いて歩こう』を、そして二重唱による高野辰之／岡野貞一『紅葉』を演奏し、最後に再び全員で北原白秋／山田耕作『この道』を歌ってコンサートを締めくくりました。

初めての実習だったので、リハーサルの時間がオーバーしてしまったり、本番で思うように力を発揮できなかった部分もありました。しかし、終演後に多くのお客様から「楽しかった」「良い気分転換になりました。ありがとう」と声を掛けて頂き、アウトリーチ活動の意義や素晴らしさを実感できました。この経験を今後の活動に生かしていきたいと思います。

(須山由梨・記)

社団法人佳生会 野木病院

八月二十九日(土)、野木病院(明石市住吉町長坂)でオータム・コンサートを行いました。(声楽・藤野直、樋岡絵里那、井本綾華、石津寛乃、フルート・木村友香、ピアノ・小幡文香、岡崎典子、須山由梨)。

プログラムは、季節を感じて頂ける曲を入れながら、チャイコフスキー『くるみ割り人形』より『葦笛の踊り』(フルート)、ドビュッシー『月の光』(ピアノ)、プッチーニの歌劇『ジャニ・スキッキ』より『私のお父さん』(ソプラノ)、パガニーニ『カンタービレ』(フルート、ピアノ)、メンデルスゾーン『歌の翼に』(ソプラノ二重唱)、永六輔／中村八大『上を向いて歩こう』、高野辰之／岡野貞一『紅葉』、北原白秋／山田耕作『この道』など親しみやすい曲を演奏しました。

『紅葉』は、本来唱歌として演奏されますが、今回は歌とフルートでリズムカルにアレンジした編曲で演奏しました。また、『歌の翼に』ではフルートと歌それぞれのソロが交わされ、さらにアンサンブルで、演奏するよう工夫をしました。

久石譲『崖の上のポニョ』を使った

体を動かすリズム遊びでは、手や膝を叩いたりして複数のリズムを同時に合わせることで、少し難しいかなと不安に思っていました。私たちの想像以上に楽しんで頂けて、その盛り上がりには驚きました。

『上を向いて歩こう』や『この道』では、歌詞カードを配布して一緒に歌って頂きましたが、私達の目を見て涙ぐみながら一緒に歌って下さり、アンコールとしてもう一度演奏した『紅葉』では、自然と皆さんが声を合わせて下さって、演奏者側と聴衆が一つになったように感じられました。

私たち  
の演奏する  
音楽に乗っ  
て体を動か  
してリズム  
を感じて下  
さったり、  
音楽を通し  
て皆さんと  
温かく、素  
敵な時間を  
共有すること  
ができて、本  
当に心に残  
る一日となり  
ました。



(木村友香・岡崎典子・記)

## 西宮市立春風幼稚園

九月四日(金)、西宮市立春風幼稚園(西宮市今津野田町二の六)にて、園児と保護者を対象とする四十分間の実習を行いました(声楽・樋岡絵里那、井本綾華、石津寛乃、粧谷榮里子、ピアノ・岡崎典子・須山由梨、フルート・木村友香、司会・藤野直)。

今回は、クラシックの楽しさを感じてもらおうことを目的とし、耳なじみのあるクラシックを中心にプログラムを構成しました。

まずは童謡(山のワルツ)で幕開け。挨拶を挟んだ後、(やぎさんゆうびん)《アイスクリームの歌》(おぼけなさん)《しゃぼん玉》の四曲を童謡メドレーにして、振り付きで演奏しました。

次にフルートが登場。音の出し方やフラッターという奏法を紹介した後、チャイコフスキー《くるみ割り人形》より《葦笛の踊り》を演奏。この曲は、携帯電話のCMで使われていたため、子どもたちは大変興味を持って聴いてくれました。続いて、ピアノ連弾でブラームス《ハンガリー舞曲》、二重唱でヴェルディの歌劇《椿姫》より《乾杯の歌》を演奏しました。

ここで、七月の七夕コンサートでも反響の大きかったリズム遊びのコーナーです。「くらげ」と「わかめ」の二種のリズムで膝や手を打ち、途中から久石譲《崖の上のポニョ》の音楽を加えました。子どもたちはポニョが加わると、一層目を輝かせて参加してくれました。

最後に、童謡《森のくまさん》をみんなで一緒に歌いました。アンコールでは、ヨハン・シュトラウスⅠ世《ラデツキー行進曲》をピアノ連弾で演奏し、聴衆の皆さんにも手拍子で参加してもらいました。



童謡や聴衆参加コーナーを組み込むことで、クラシックへの抵抗感は多少緩和できたように見受けられましたが、やはり魅力を伝えるためにはまだまだ改良点があると感じ、大変勉強になりました。

(藤野直・記)

## 西宮市立夙川幼稚園

九月八日(火)、西宮市立夙川幼稚園(西宮市松ヶ丘町九の二十三)で「秋のコンサート」に出演しました(声楽・藤野直、樋岡絵里那、井本綾華、粧谷榮里子、フルート・木村友香、ピアノ・岡崎典子・須山由梨、総合司会・小幡文香)。園児対象であることに留意して、全体を通して楽しんで聴いてもらえるよう構成を工夫しました。

まずは童謡メドレーで、《山のワルツ》(やぎさんゆうびん)《アイスクリームの歌》(おぼけなさん)《しゃぼん玉》を全員で歌いました。独自在考えたおもしろい振り付けも効を奏し、子どもたちを惹きつけました。《しゃぼん玉》を全員で歌った頃には、音楽を楽しむ和やかな雰囲気ができ上がりました。

ここから曲目はクラシックへ。フルートでチャイコフスキー《くるみ割り人形》より《葦笛の踊り》、ピアノ四手連弾でブラームス《ハンガリー舞曲》、ソプラノ二重唱でヴェルディの歌劇《椿姫》より《乾杯の歌》を演奏しました。子どもたちが飽きないか不安でしたが、集中して聞いてくれたようです。

続く「みんなで遊ぼう」コーナーでは《大きな栗の木の下で》の手遊びをテンポに緩急をつけて楽しみました。

最後に童謡《森のくまさん》を全員で歌って締めくくりました。



子どもたちも保護者の方も終始楽しそうに聴いて下さったので、親子のためのコンサートのやりがいや需要を改めて感じる事ができて、うれしく思いました。卒業後もこのような演奏会を企画してみたいです。

この実習は夏休み最後の日程であったため、司会や立ち居振舞などの精度が上がっており、余裕を持って取り組むことができました。ライブならではの予期せぬ事態に対応できる力もついてきているかもしれません。経験による蓄積を実感でき、有意義な実習となりました。

(石津寛乃・記)

## アウトリーチ海外通信

ニューヨークのアウトリーチ活動から

アウトリーチ・センター長

津上智実

二〇一〇年一月中旬、ニューヨークで行なわれた三つの会議に、三大学連携事業の一環で参加してきました。「音楽院と音楽大学における教育アウトリーチ協会」第四回年次会を含む三つの会議については、三大学連携事業のホームページ等で報告される予定ですので、ここでは滞米中に見学することができた三つのアウトリーチ活動の現場について報告します。

まず、ニューヨーク・シティ・バレエの「スタジオ・トーク」について。これは開演前のロビーで、当日の公演チケット購入者の中で希望して参加費（十ドル）を払った人々を対象に行なわれる四十五分間（十八時四十五分～十九時半）のプログラムです。プリンシパルとソリストの二人の踊り手とバレエ・マスタが登壇し、この三人にアウトリーチ・プログラムのマネジャーが司会役で加わり、バレエの魅力は何かという話を引き出していき見が出て、参加者たちの意識の高さが強く感じられました。踊り手たちが自らについて語る貴重な場として、コアなファンに向けた特別企画と見えま

した。シーズン中に四回、木曜日の夕

方に行なわ

れています。



次に、同じくニューヨーク・シティ・バレエの「子どもワークショップ」について。これは週末のマチネ公演の前に

行なわれる四十五分間（十二時四十五分～十三時半）のプログラムで、五歳以上の子どもの対象です（参加費十ドル）。この日（一月十六日）の演目はヘロミオとジュリエット。そこでまずロミオ役の踊り手が登場して、バレエを始めた経緯などを語り、子どもたちの質問に答えます。続いてティーン・キング・アーティストとピアニストが登場して、キャブレット家とモンタギュー家の決闘の場面の音楽に合わせ簡単な振付けを子どもたちに教えます。バレエ学校の若い生徒二人が、二手に分かれた子どもたちに一方は赤、他方は紫のマントを着せて、やさしくリードしながら繰り返し踊りました。質問コーナーの後、マントをお土産にもらって皆うれしそうにホールに向かっています。二色のマントに二色のマントが用意されて、子どもたちが自然に程よい距離で並べるように工夫されているのが印象的

した。こちらはシーズン中五回の開催で、早々と切符が売切れる人気の企画です。いずれの企画も、バレエ団メンバーとの相互交流によって、公演そのものの体験をより深いものとすることを目指しています。

最後に、ジュリアード音楽院のグルック・コミュニティ・サービス・フェローシップの活動例について。これはジュリアード音楽院の八種あるアウトリーチ奨学金の一つで、市内の病院や福祉施設で年間十二回以上演奏すると二千ドルの奨学金が与えられるものです。この日（一月十六日）はピアノとチェロの学部二年生二人がスローン・ケッタリング記念ガン・センタールの音楽室で四十五分間（十五時～十五時四十五分）のコンサートをしました。最初に自己紹介と曲目について和やかなトークがあつて、そこまではよかったのですが、いざ一曲目（サミュエル・バーバー「ピアノ・ソナタより第一楽章」）が始まってみると、深刻で暗く厳しい響きの連続で、見る間に一人去り、二人去り、四人去りで、聴衆（患者とその家族）が三分の二に減ってしまいました。どんなに上手でも、聞きたくない音楽であれば聴衆は出て行ってしまおうという至極当然の展開です。ジュリアードでも現場ではこんな問題が起きているという実態を目の当たりにして、改めて事前教育の大切さを思い、身の引き締まる思いがしました。

## 履修生紹介

「音楽によるアウトリーチ（講義）」を履修した三回生（九期生二十名）



## ピアノ

遠藤麻子、藤波真理子、濱野恵理香  
小林聡子、森澤彩乃、中谷佳奈子  
恒岡朋代、砂川奈穂、丹波友里  
矢嶋杏里沙、山下恵理奈

## 声楽

綾野聖子、楠瀬由記、松井るみ  
谷真貴子、若原有沙

## フルート

古山友貴、石原奈緒美、宮永佳代子  
曾田友子

四年生（八期生八名）からの

メッセージ



藤野直（声楽）

自分たちが聴衆に何を伝えたいのかを明確にし、それを軸としたプログラムを構成する。そしてどんな状況であっても誠意を持って取り組み、見直し、改良を重ねる。この一見当たり前のことが、実は何より困難で、しかし何より重要であると痛感しています。この場をお借りして関わってくださった全ての方々に感謝申し上げます。



樋岡絵里那（声楽）

アウトリーチ活動は責任感と自覚をしっかりと持たなければならぬ事を学びました。皆で案を出し合いながら何度も何度も話し合っってプログラムを作り、念入りにリハーサルを行ったりしなければいけないので一つの公演にたくさん時間を掛けるので大変ですが、終わった後の充実感はとても大きなものです。これからアウトリーチ活動に励む皆さん、頑張ってくださいね。



井本綾華（声楽）

「音楽によるアウトリーチ」を履修して、学内でのコンサートや地域に実習として演奏活動をしに行き、大変勉強になりました。皆でプログラムを立て、意見を出し合い、一つのものにしていくということがどれだけ大変かということとがわかりました。アウトリーチ履修生の皆や周囲の方々に支えられ、手助けして頂き、心から感謝しています。



石津寛乃（声楽）

実習を重ねる中で、音楽や自分自身を見つめる機会やヒントを多く頂きました。音楽の持つ力や社会から求められる音楽、また、自分が音楽をどう捉え、音楽を通して何がしたいのか、そして自分は何ができて何が足りないのか……。たくさん考えることができた一年でした。卒業を控え、この学びの場を頂いたことに心から感謝しています。



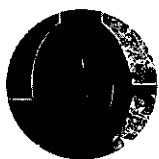
木村友香（フルート）

アウトリーチを履修して、たくさんの方の気付きや経験、素晴らしい瞬間を与えて頂きました。プログラミングでは、演奏側からだけでなく、聴く立場になって考える事、実習では、こちら側から心をどんどん開き、親しみを持って接する事の大切さを感じ学びました。音楽を通して人と関わり合い、そして忘れられない貴重な一時を作り、共有できるアウトリーチを履修でき、本当に幸甚な、思い出深い一年半となりました。



小幡文香（ピアノ）

念願だったアウトリーチ実習！本当に私にとつてかけがえのないものとなりました。常にお客さん側に立つて考えるのは本当に難しく大変だったけれど、その分返ってくるものは本当に大きかったです。音楽が人の心を動かすのを目の前で実感し、たくさん感動！温かい気持ち！になれました。履修して損なんて絶対ありません。履修した人しか味わえない貴重な経験をたくさんさせてもらえます。皆さんも是非！



岡崎典子（ピアノ）

アウトリーチの授業を履修して、様々な方向から音楽を考えるようになり、音楽に対する思いや考え方が変わりました。プログラム作成はとても難しかったですが、音楽を通して何を伝えたいのかを履修生みんなで何回も話し合いました。私たちのアウトリーチ活動に協力し支えてくださった皆さんの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。



須山由梨（ピアノ）

私にとつてアウトリーチ実習は、これから演奏家としてのよううに社会と関わっていききたいか、音楽で何を伝えていきたいかを考えるきっかけとなりました。正直辛いこともありましたが、実習を通してたくさんの方々と出会えたことに感謝するとともに、この経験をぜひ生かしていきたいと思っています。

## 2009 年度実習歴

- |           |                                       |
|-----------|---------------------------------------|
| 7月4日（土）   | 子どものためのセタコンサート ～キラキラ光る音の世界へ～          |
| 8月27日（木）  | 神戸市立医療センター中央市民病院アウトリーチ                |
| 8月29日（土）  | 社団法人 佳生会 野木病院アウトリーチ                   |
| 9月4日（金）   | 西宮市立春風幼稚園アウトリーチ                       |
| 9月8日（火）   | 西宮市立夙川幼稚園アウトリーチ                       |
| 10月17日（土） | 子どものためのオルガン・コンサート<br>～パイプでド・レ・ミ！～     |
| 12月12日（土） | 子どものためのクリスマス・コンサート<br>～音楽にのって世界をめぐる！～ |
| 3月4日（木）   | 国立病院機構 刀根山病院アウトリーチ                    |
| 3月16日（火）  | 学校法人雲雀丘学園小学校アウトリーチ                    |

## 次号のお知らせ

(アウトリー千通信 16号 2010年9月発行予定)

- ♪ 国立病院機構 刀根山病院アウトリーチ
- ♪ 学校法人雲雀丘学園小学校アウトリーチ
- ♪ 子どものための七夕コンサート
- ♪ 卒業生の活動 その他

**お楽しみに！**

子どものための  
クリスマス・コンサート

出演者オーディション開催決定

「音楽によるアウトリーチ」既修生を中心とするグループでの企画を募集します。

詳細は後日HPにて発表！

**音楽をお届けします！！**

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。

大学やホールといった従来の枠にとらわれずに、社会のさまざまな場ですてきな音楽のプログラムをお届けします。

- ♪小中学校へ：総合的学習支援プログラムとして、  
子どものための楽しい体験学習を！
- ♪病院や美術館へ：催しの趣旨に沿った手作りの音楽  
プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター (月～金 10:00～15:00)

〒662-8505 西宮市岡田山 4-1 TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551

E-mail : [outreach@mail.kobe-c.ac.jp](mailto:outreach@mail.kobe-c.ac.jp)      <http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/>

## 編集後記

8期生の皆さんと充実した活動ができました♪ありがとうございました！ 寺澤

今年度もたくさんの人に支えられて、実り多い1年でした。ありがとうございました！ 三上  
10月から月木に勤務しています。まだまだ慣れませんが、皆様に助けて頂き感謝でいっぱいです♪ 井上  
昨秋より3大学連携事業が加わって、さらにダイナミックに展開しそうです。ご期待ください。 津上